



JST 理事長 記者説明会

平成29年1月30日



科学技術振興機構



新年の抱負



科学技術振興機構

制度概要

- 我が国の競争力強化のため、**新しい試みに果敢に挑戦し、非連続なイノベーションを積極的に生み出していくことが必要。**
- このため、社会・産業ニーズを踏まえ、**経済・社会的にインパクトのあるターゲット（ハイインパクト）を明確に見据えた技術的にチャレンジングな目標（ハイリスク）を設定し**、民間投資を誘発しつつ、戦略的創造研究推進事業や科学研究費助成事業等から創出された多様な研究成果を活用して、実用化が可能かどうかを見極められる段階（概念実証：POC）を目指した研究開発を実施。

事業の特徴

- 探索加速型については、**国が定める重点公募テーマの設定に当たっての領域を踏まえ、JSTが情報分析及び公募等によりテーマを設定。**戦略的創造研究推進事業や科学研究費助成事業等から創出された多様な研究成果を活用して、斬新なアイデアを絶え間なく取り入れる仕組みを導入した研究開発を行う
 - 大規模プロジェクト型については、**科学技術イノベーションに関する情報を収集・分析し、現在の技術体系を変え、将来の基盤技術となる技術テーマを国が特定し、当該技術に係る研究開発に集中的に投資する**
- ※各国ともハイリスク・ハイインパクトな研究開発を重視
 EU: Horizon 2020において約27億ユーロ（約3,100億円）/7年
 米国: DARPAにおいて約30億ドル（約3,000億円）/年 等

マネジメント

1. PM方式

- 斬新なアイデアの取り込み、事業化へのジャンプアップ等を柔軟かつ迅速に実施可能とする

2. スモールスタート・ステージゲート方式

- スモールスタートで、多くの斬新なアイデアを取り入れ
- ステージゲートによる最適な課題編成・集中投資を行い、成功へのインセンティブを高める

3. 産業界の参画（出口を見据えた事業運営）

- テーマの選定段階から産業界が参画するとともに、研究途上の段階でも積極的な橋渡しを図る（大規模プロジェクト型は、研究途上から企業の費用負担、民間投資の誘発を図る）

体制・スキームイメージ

文部科学省

- ・重点公募テーマの設定に当たっての領域、技術テーマの決定

<探索加速型> 領域（区分）

- 超スマート社会の実現
- 持続可能な社会の実現
- 世界一の安全・安心社会の実現
- 地球規模課題である低炭素社会の実現

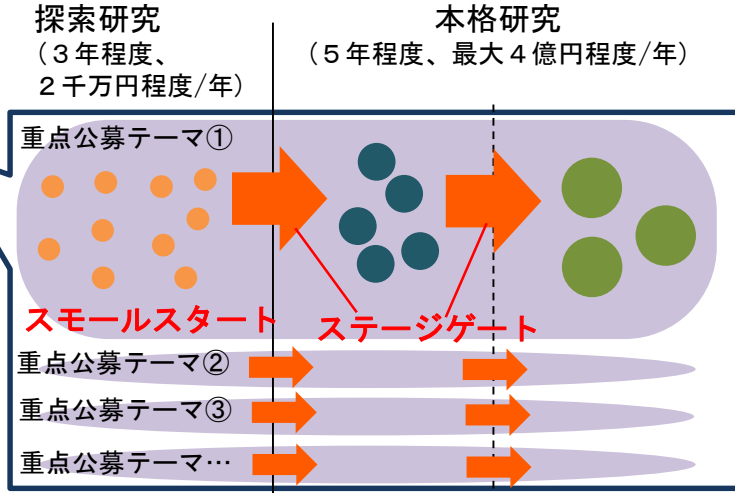
<大規模プロジェクト型>

技術テーマ

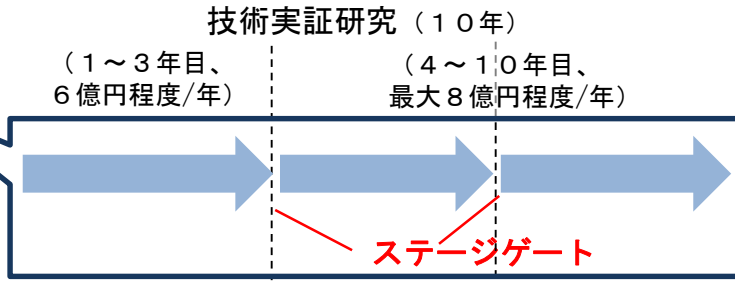
- テーマA
- テーマB
- ...

科学技術振興機構（JST）

- ・PM選定、重点公募テーマの設定
- ・重点公募テーマ、技術テーマに基づく研究開発課題選定等
- ・進捗状況把握、評価、研究課題統合・絞込み

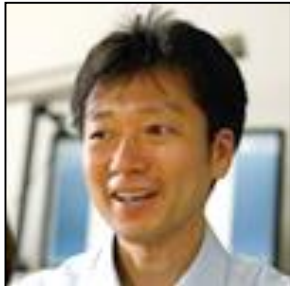


※ 具体的な研究期間、研究費は各課題に応じて変動。また、有望な課題は即座に加速を図るなど、機動的に対応

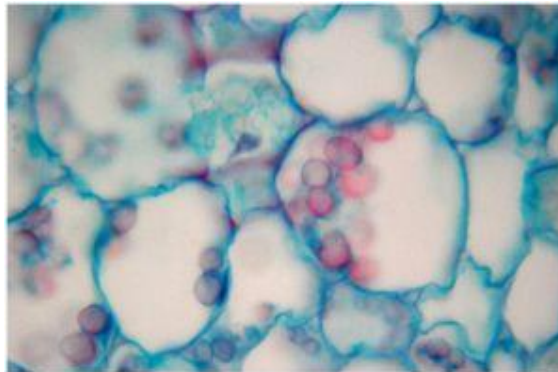


理事長記者説明会 講演者のご紹介

金井 求（東京大学 教授）



- ERATO金井触媒分子生命プロジェクト 2011年～ 研究総括
- 2001～2004年 さきがけ「合成と制御」研究代表者
- 2001年 日本薬学会奨励賞
- 2003年 Thieme Journals Award
- 2005年 Merck-Banyu Lectureship Award
- 2016年 トムソン・ロイター 第4回リサーチフロントアワード



生命とは化学反応システムである。「触媒」という統合概念の元に、人類の健康に貢献する「創薬」を多面的に推進し、化学のcreativityを活かした「擬似生命」からの新しい病態治療を模索したい。化学と生物の垣根を無くした学際的な場での人的な化学反応を駆動力として、生命科学と物質科学の相乗的な進化を促進し、100年後のサイエンスへとつながる「水源」を創る。

・JSTニュース12月号に特集記事「触媒で生命と健康を守る」